

夜もすがら物思ふころは

つゞき

明けやらぬ 閨のひまやん

つれなかりけり

一晚中恋しい人を思って悩んでいるので、早く夜が明けたらよい
と思つてはいるのですが、なかなか夜は明けず、寢室の隙間さへも
わたしにつれなく感じられます。

(百人一首 八五番 俊恵法師)

中一 二 三